

自己評価報告書

平成23年 4月25日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究期間：平成20年～平成23年

課題番号：20520545

研究課題名（和文）小学校英語教育に関わる指導者研修モデル・指導者養成カリキュラム

研究課題名（英文） In-service Teacher Training Model and Pre-service Teacher Education Curriculum for Elementary School English Education

研究代表者

渡辺 浩行（WATANABE HIROYUKI）

宇都宮大学・教育学部・教授

研究者番号：40275805

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学（4003）

キーワード：小学校英語教育 指導者研修モデル開発 指導者養成カリキュラム開発

1. 研究計画の概要

本研究の目的は「小学校英語活動指導者研修モデル開発」とそれを踏まえた「英語教育に関わる小学校教員養成カリキュラム開発」である。研究概要は以下のようになる。

- ① その開発に向け、まず先進例を調査する。
- ② 次に、研修・養成の核となる授業分析・改善に実践的、臨床的に取り組む。すなわち、小学校教師の英語授業を記録・観察し、第二言語習得の観点から授業分析を行う。
- ③ 一方で、教師の「知識」「指導法（技術）」「態度（信念）」「指導環境（実情）」等、授業実践に影響を及ぼす要因を明らかにし、具体的で実践可能な改善策を考察し提案する。
- ④ さらに、その改善策が有効であるかを検証する。
- ⑤ その改善策を拠り所とし、個々の教師の指導力を高めるべく、授業改善を軸にした小学校英語活動指導者研修モデル案を作成し、近い将来の指導者養成（教員養成）のカリキュラムを試作する。

2. 研究の進捗状況

研究初年度の平成20年度には、「他大学視察・小学校視察・学会参加」「月例研究会発足・アンケート分析・DVD試作」「備品購入（ICT活用）、研修会開催」を実施した。

平成21年度は、「小学校外国語（英語）活動のシラバス・単元、その具体的指導法（活動）の録画DVD（小鉢）を作成」し、その成果を学会にて発表した。

平成22年度は、研究会、研修会を継続しながら、「小鉢」と称する具体的な

活動の有効性について検証を図り、その成果の中間発表を学会にて行った。

先進例、教師研修、教師へのアンケート結果からわかったことは、「英語に自信がない」「指導力に自信がない」「授業準備の時間がない」という教師の実態である。他方、授業記録・観察・分析と第二言語習得研究の知見から明らかとなったのは、「（音声）インプット重視」であり、さらに、有効な（音声）インプットには、「理解可能」「児童の志向性への配慮」「アウトプットの必要性」の3要素が欠かせないということである。

次に取り組んだのは、「教師の実態」を考慮しつつ、「言語習得を促すインプットの3要素」を反映させた具体的活動（指導法）の提案である。短く手ごろな活動、と言う意味合いで名づけた「小鉢」という活動例を約20程度DVDに編集し、目に見える形で提案することになった。併せて、「小鉢」と連動したシラバス・単元（カリキュラム）も作成し、その成果を第9回小学校英語教育学会で発表した。

さらには、小学校共通教材となった「英語ノート」を考慮した「小鉢」も作成し、2つめの「小鉢」DVDを編集した。その後、作成した「小鉢」の有効性、改善点をみるため、「小鉢」を用いた授業実践を実施継続し、その成果を第10回小学校英語教育学会にて発表した。また、いくつかの教員研修・養成で紹介し、「実践的で役立つ」「児童の反応が良い」などの好意的な評価を得ており、「小学校

英語活動指導者研修モデル」と「英語教育に関わる小学校教員養成カリキュラム」の開発に向け、本格的な「小鉢」の有効性の検証、改善点の特定を図ろうとしてきた。

3. 現在までの達成度

以上の進捗状況を「研究計画の概要」①～⑤に照らし合わせると、かなりの部分が達成されたと判断できる。とりわけ、具体的な活動が「小鉢」、それと連動したシラバス・単元（カリキュラム）、として提案できたことは大きな成果である。また、学会や教員研修・養成において、「実践的で役立つ」と評価されていることから、その有効性が高いということもわかってきている。

これを踏まえ、これまでの達成度はおよそ8割程度と考えている。

10割とまらない理由は、主に、本研究と関連した平成22年度採択科研費研究「児童・生徒の意識調査と言語習得研究の観点による小中連携の授業」（課題番号：22520634）に、研究分担者として新たに取り組んだためである。この研究は、以下の「今後の研究の推進方策」でも触れているように、本研究に大きく貢献するものである。

4. 今後の研究の推進方策

研究計画⑤の達成に向け、まず、不十分であった研究計画④に取り組む。すなわち、「小鉢」（授業改善に有効な具体的な活動）の有効性を継続して検証し、その改善点を探る。その一環として、小学校教師、児童、教員養成課程大学生を対象に、少なくとも300人規模の「小鉢」に関するアンケートを実施し、その結果を分析検討する。同時に、（第二）言語習得の観点から、「小鉢」が有効な活動であることを再度検討する。

さらに研究計画⑤に向けて、研究初年度に先進事例校として訪問した大学（京都教育大各、東京学芸大、千葉大学）を再訪し、この3年間の経緯や変化を取り込み、学会発表も継続して広く専門家、教育実践者の意見を取り入れるようにする。

そして、「児童・生徒の意識」「言語習得研究の観点」「小中連携の視点」も重視し、科研費研究（課題番号：22520634）における成果を少しでも本研究に取り込んでいきたい。

以上の研究結果を整理し、授業分析・改善を要とした「小学校英語活動指導者研

修モデル案」「指導者養成（教員養成）のカリキュラム案」を作成して本研究のまとめとし、研究計画⑤を達成する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計4件）

- 第9回小学校英語教育学会研究大会（東京）
 1. 教師の「できる活動」と「したい活動」の差 渡辺浩行・太田 洋
 2. シラバスと具体的活動の鍵となる小鉢の発想 太田 洋・渡辺浩行
- 第10回小学校英語教育学会研究大会（北海道）
 3. 「小鉢」による授業改善 井上富美枝・内田志保
 4. 授業分析・改善の視点・観点の試作 太田 洋・渡辺浩行